

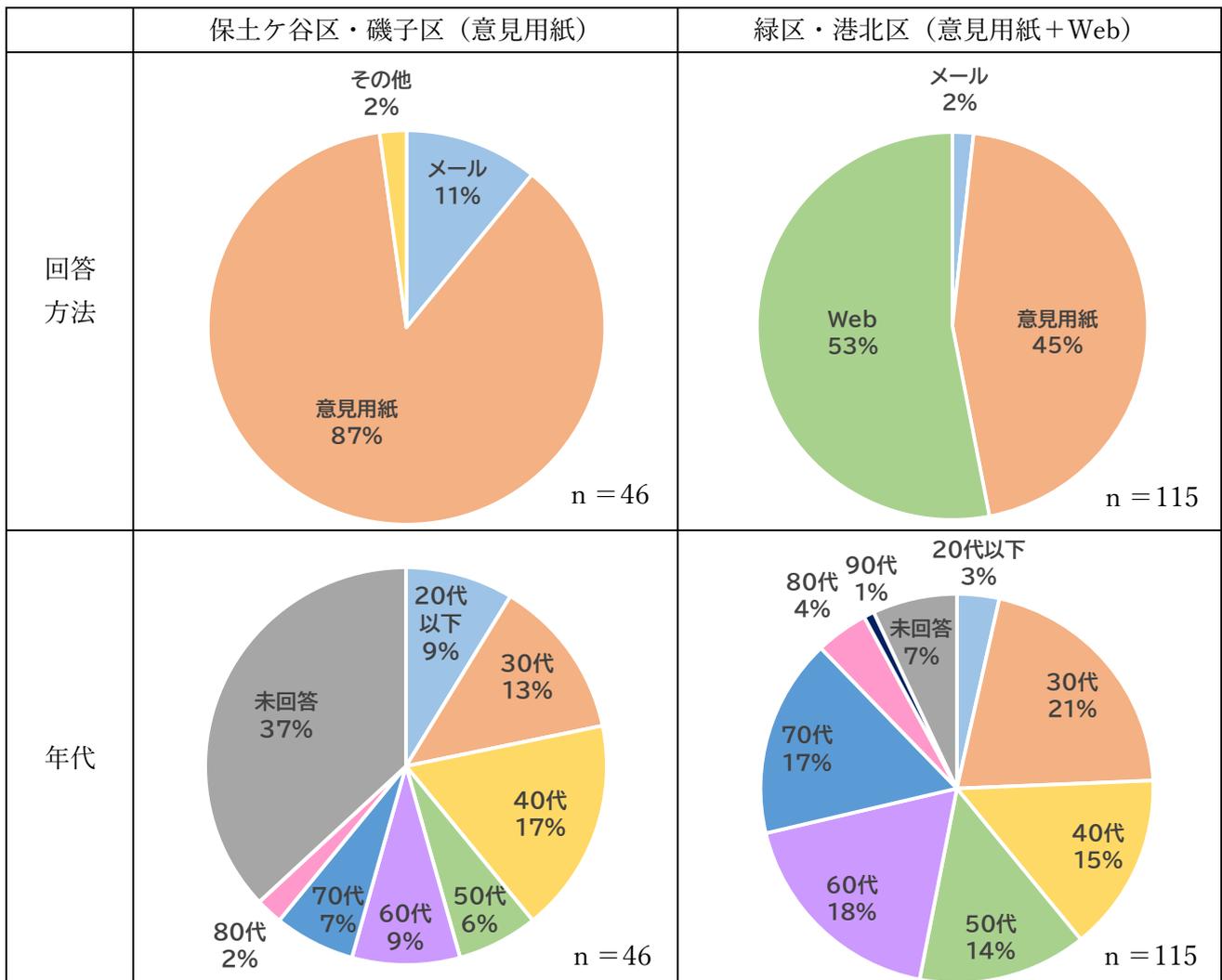
### 緑区・港北区におけるバリアフリー情報募集について

バリアフリー基本構想作成にあたっては、部会委員や障害者の方と一緒にまちのバリアを点検する「まちあるき点検」に併せて、市民の皆さまからバリアフリーに関する情報を募集する「バリアフリー情報募集」（以下、「情報募集」という。）を行います。

これまでの情報募集は、意見用紙（チラシ）が主で、各区の区役所、地域ケアプラザ、鉄道駅等に配架し、情報を記載したチラシを区役所で提出いただくという形がほとんどでした。しかし、紙媒体に限定した募集であること、提出の手間がかかることから、若い世代の回答が少ない、情報が中々集まらないといった課題がありました。

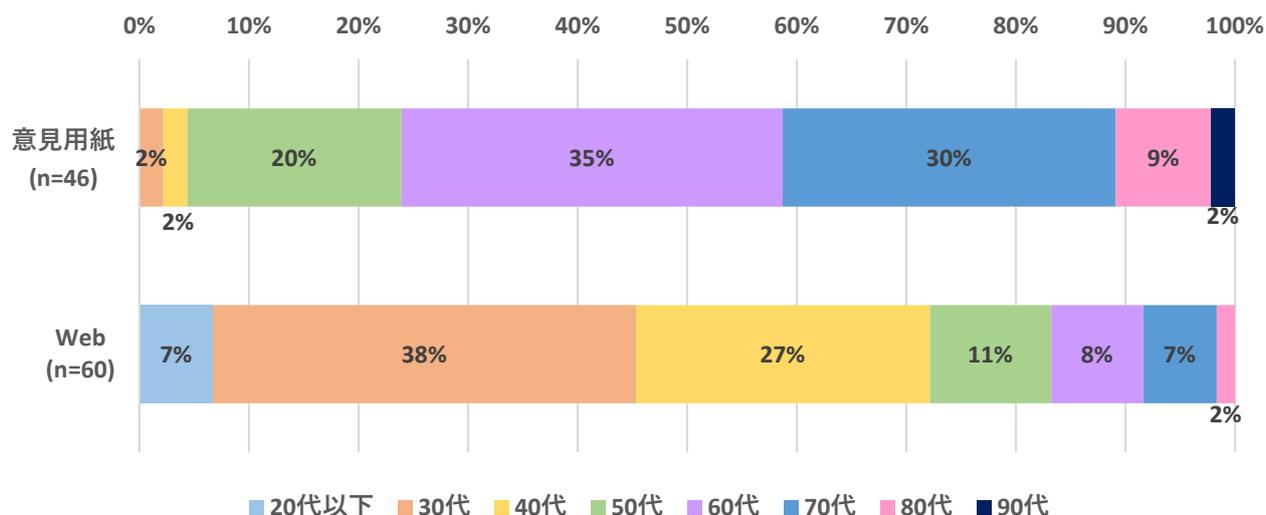
そこで、現在検討している緑区・港北区の情報募集では、上記の課題を解決するため、意見用紙と併せて、GISを用いたWebの情報募集を実施しました。Webの情報募集は、PCやスマートフォン等で手軽に情報の入力・送信ができます。

以下に、意見用紙のみで情報募集を実施した保土ヶ谷区と磯子区、Webも活用した緑区と港北区の情報募集の結果を示します。



以前は回答方法のほとんど全てを占めていた意見用紙ですが、緑区・港北区では Web での回答が意見用紙よりも多い結果となりました。年代は大きな違いは見られませんでした。未回答の割合が減り、より実態に合ったデータとなりました。サンプル数は緑区・港北区が保土ヶ谷区・磯子区の倍以上であったため、Web の活用による効果があったと考えられます。

また、緑区・港北区の「回答方法」と「年代」は以下のような関係性がありました。  
 (「回答方法」は意見用紙と Web、「年代」は未回答を含まない)



意見用紙での回答の約 76%が 60 代以上の方であったのに対して、Web での回答の約 83%が 50 代以下の方でした。50 代以上は意見用紙の割合が高く、40 代以下はかなりの割合を Web が占めています。

意見用紙と Web を併用して情報募集を実施することで、回答方法の選択肢が増えたため、より多くの方に回答のご協力をいただけることが今回の取組で分かりました。